

祝 創立75周年
令和7年度7月号



咲かせよう大正の花 つなげよう大正の未来

台東区立大正幼稚園

HP: <https://www.taito.ed.jp/1380011>



学びの芽

園長 北村 恵

梅雨に入ったと思ったら、猛暑のような日々が続き、熱中症が心配になる日々です。今年の梅雨は、雨が続くというよりは、ザーッと降っては暑くなるという繰り返しだそうです。

園で育てている野菜たちはどのクラスの親子栽培もすくすく大きくなって、トマトには青い実がたくさんつき、なすは大きく茂った葉の陰に紫に光った実が生り始めています。毎朝園庭のホワイトボードを確認して水やりをしたり、週に1度肥料をあげたり、脇芽や雑草を取ったりと、親子で丁寧に世話をしている成果ですね。

3歳児の子供たちは栽培物の変化によく気づき、言葉に出しています。「トマトにお花が咲いている」「きゅうり大きくなったね」「なんで大きくなるの」等々、嬉しいな、不思議だな、なんでもかな、とたくさん心が動いている証拠です。ちょうちょうの飼育ケースもよく覗いていて、「園長先生！ちょうちょうが生まれたよ～」と教えてくれるのも、初めてのことに興味津々な、うさぎ組の子供たちです。「なんで」「どうして？」もたくさん出てきます。そんな時にはじっくり丁寧に付き合います。大人になると分からないことを素直に聞けないことがあります、「知りたい！」という子供たちの素直な気持ちは学びの基本なので、大切にしたいと思っています。

4歳児ばんだ組は場づくりが大好きです。少ない人数でよくここまで作るなあ、と感心するぐらい様々な遊具を使って、自分たちの場を作っています。そして、キャッチ力もすごいので、隣の5歳児の部屋で紙芝居が始まったと思ったら、気が付くと4歳児も「映画館作ろう！」と椅子を並べ始めます。「やってみたい」は遊びの原動力です。担任の先生も子供たちの思いを実現したいと、あれやこれやと悩みながら一緒に考えていました。

先週の和太鼓の会での5歳児の姿にも驚かされました。11月の75周年パーティーで演奏するために、去年の年長児が披露していた、「あっぱれ」という曲を江上瑠羽先生に初めて教えてもらいました。約1時間という時間でしたが、飽きることなく最後まで真剣に太鼓を叩くことができました。一人一人が太鼓を叩く時に、先生の演奏する姿をじっと見て同じように真似をしていました。太鼓を前にすると大人でも、視線が自分の太鼓に行きがちなのですが、驚いたことにぞう組の子供たちの視線は先生の叩く姿に注がれていて、同じように演奏したいという気持ちが伝わってきました。先生の素敵な姿へのあこがれが子供たちの心を動かした結果だと感じました。「先生のように叩きたい」という目あてが子供たちの中に芽生えていました。

幼稚園の生活の中では、たくさんの学びの芽を見付けることができます。きっとご家庭でも保護者の方が見付けている子供たちの学びがあると思います。ぜひ、それを担任の先生にも共有してください。これからも、子供たちの成長と一緒に喜び合っていきましょう。